



## 要 望 書

2020年 9月 28日

小学館不動産株式会社  
代表取締役社長 相賀昌宏 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)  
関東甲信越支部 支部長 慶野正司  
同 保存問題委員会 委員長 窪寺弘行  
同 千代田地域会 代 表 大橋智子



### 神保町ビル別館（旧相互無尽会社ビルディング）の保存活用に関する要望書

拝啓 貴社、及び株式会社小学館様、一ツ橋グループ様におかれましては、日頃より、千代田区の地域文化に深く理解を示され、地域と手を携えて街の健全な発展に貢献されていることに、心より敬意を表します。

さて、このほど、貴社が所有されている「神保町ビル別館」（旧相互無尽会社ビルディング、千代田区神田神保町2丁目19）が、近く解体され、新しい建物が建築される予定であることを知りました。

貴社の「神保町ビル別館」は、大正12年の関東大震災により甚大な被害を受け、ほぼ焦土と化した神田神保町さくら通りの一角に、昭和5年（1930年）に相互無尽会社の建物として、安藤組の設計施工により鉄筋コンクリート造の最新技術で建築された、いわゆる震災復興建築であります。モダニズムの明快な構成をスクラッチタイル貼りの外装で包み、様式的な意匠表現を加味して荘重さを加えた、この時期の市民間の業務ビルの一典型としてよく旧状をとどめており、文化財に指定される資格を持つ建物です。

竣工当時から、均整の取れたプロポーションと茶色いタイルの落ち着いた外装、スパニッシュ瓦の庇、アクセントとなる窓周りの装飾などにより、小ぶりながら格調があり、かつ愛らしい街角のビルとして、市民に親しまれました。戦後も第一相互銀行、太平洋銀行、わかしお銀行と名を変えながらも、建物は大きな改変なく継承され、靖国通りの古書店街に並行して、飲食店など各種店舗や映画館が建ち並ぶさくら通りの賑わいのある一角で、凛としたたたずまいを見せてきました。用途が変わりオフィスとなった後、貴社に引き継がれた今日でもなお健在で、震災復興・戦災復興を担った建築遺産がほとんど失われた今日、昭和初頭の文化的息吹きを伝える貴重な遺産となっています。

千代田区の「景観まちづくりガイドライン」も指摘するように、神保町は、大通りとさくら通りのようなそれを繋ぐ道路、さらに小さな路地が奥行きのある界隈を形成しており、この建物は、その一角にあって、界隈の持つ一種古風で文化的な香りの醸成に力を添えてきました。人々に親しまれてきたこの建物は、界隈のシンボルとして、将来を展望するまちづくりに個性を与える貴重な景観資源と位置づけられます。

当協会は、人々に親しまれてきた近代建築の遺産として、また、まちづくりの景観資源として「神保町ビル別館」（旧相互無尽会社ビルディング）の価値を訴えるとともに、それを保存・活用する道を見出し、さくら通りの街角に生き続けるように取りはかられることを要望いたします。

近年、一般市民にも近代建築の価値が見直され、既存建物を解体しないで、新しい計画の一部として活用し、魅力的な建築が生まれる事例が増えています。公益社団法人日本建築家協会は、歴史的建造物の保存・改修技術、活用の事例紹介・提案など、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事をお伝えしたいと存じます。

敬具